

支える人を支える 京都の 福祉

- 「我が事」と考える地域づくり
- 外国人介護人材のいま

▼2ページ

自分らしい暮らし・しあわせとともに考える

府社協 HP 公式 X



2025
11
no.622

▼5ページ



Y 紙面で「生産年齢人口の減少」といった文言を見る度に不安になるが、まずは、若い世代の子ども達に、福祉の仕事を、自分達の身近にあるものとして理解してもらいたい。そして、誰かを支援する仕事のことについて関心を持つてもらえるよう、福祉の魅力発信に取り組んでいくたい。

Y この施設見学は、就業年代にはまだ遠い子ども達を対象に、福祉の仕事の理解を深めたり、興味を持つてもらうことを目的とした「次世代の担い手育成事業」という取組で行っているものである。

Y 先日、京都市内の高齢者施設を訪問した。地元の小学生が施設を訪れ、利用者から昔の暮らしの様子を聞いたり、車いすを実際に体験したりするという、施設見学に帯同したのである。

Y 僕らで見ていると、最初は緊張していた子ども達が、徐々に利用者に慣れていく様子がみてとれた。配膳や体操のお手伝いをしながら、楽しそうな声や顔を見つけると、こちらもつられて嬉しくなった。

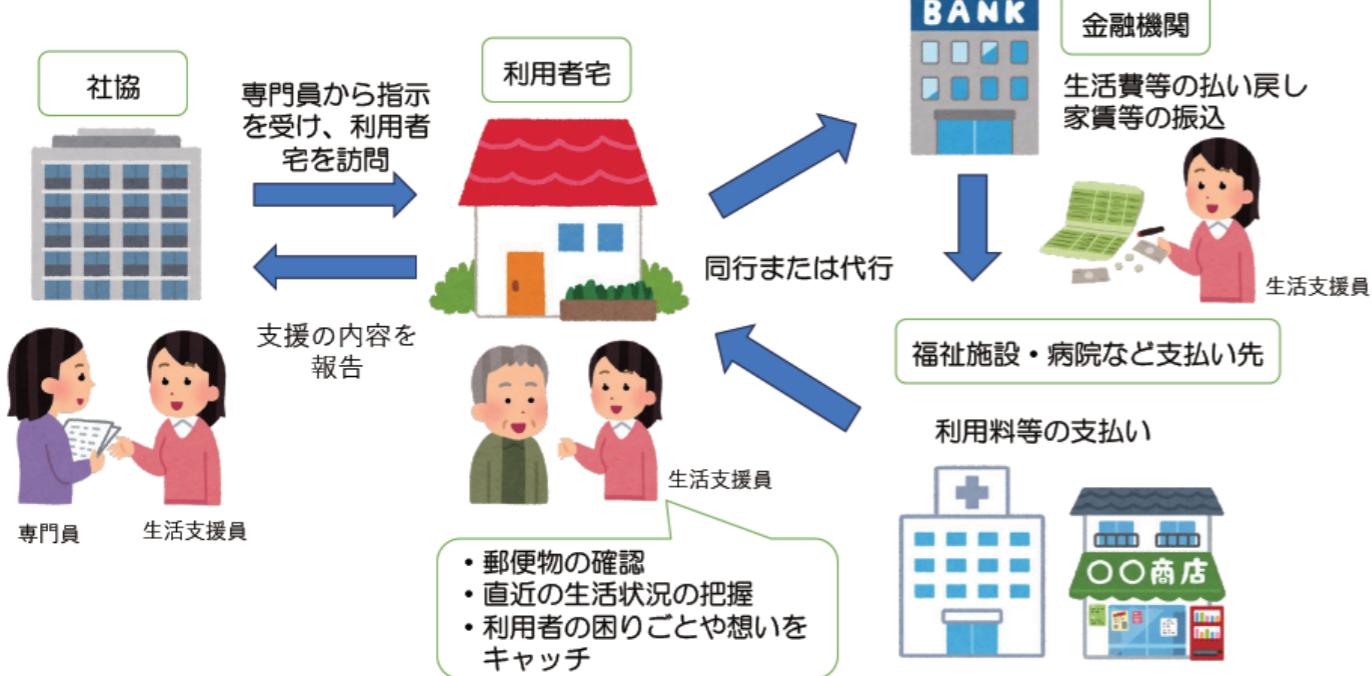
もえくさ



Y・Y



生活支援員 支援活動例



生活支援員の方々にインタビュー



- 退職を機に何かボランティアをしてみたかった
- 人の役に立つ仕事をしようと思った
- 民生委員やボランティアとして活動していて社協から声がかかる
- 社協の広報誌を見て興味を持った



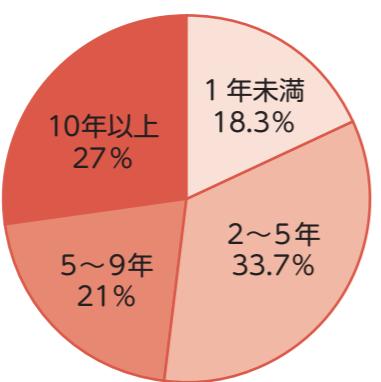
詐欺被害にあい、気持ちも落ち込んでおられたが、訪問を重ねるうちにいろいろとお話をされるようになった。ゴミ出しの困りごとを聞き、専門員へ報告。後日、ゴミ出しをお手伝いするボランティアの支援により、ゴミも定期的に出せるように。いろんな人に支えてもらって「今が一番幸せ」と前向きになられた。

退職後、社会とのつながりがなくなり、何か人の役に立つことがしたいと社協へ相談。生活支援員を紹介され、活動を始めた。利用者のAさんは、気遣いがあって誰にでも声をかけ仲良くなるうらやましい性格。生活支援員の活動をして、今まで出会うことのなかつた人、世界とつながることができた。

本人のお金を預かり、支援する仕事。「お金を使いたい」という思いに寄り添いながら一緒に考えていくことに悩むときがある。社協の専門員に相談しながら関わっている。

地域で活躍中! 生活支援員 (京都府内)

- 活動員 …… 315名
- 活動年数 …… 右グラフ参照



高齢者や障害のある方が、地域で安心して暮らしていくための支援活動をしてみませんか。お住いの市町村社会福祉協議会まで問い合わせください。

生活支援員は、市町村社協の専門員が作成した支援計画にもとづいて郵便物の確認、年金などの収入の確認、福祉サービス利用料の支払い、日常生活費の払い戻しや仕分けなどの業務を行います。また、利用者との会話の中から福祉サービスへの要望はないか、生活の困りごとはいかを察知することも大切な役割です。何らかの課題がある場合は相談を受け、専門員へ報告します。判断能力が不十分な方のお金を扱う支援であることから、通帳やお金

の受け渡しは必ず書面等で確認するなど適正な事務も求められます。

本人らしい生活と変化に寄り添う

生活支援員は、支援の中でやりとりした会話や利用者の少しの変化を受け止め、思いを代弁していくことでその人らしい意思決定を支えています。支援で関わる中で、「通帳を預かることで不安が減り、表情が明るくなつた」「支払いができ、生活が安定した」

「訪問を待っていてくれる」など利用者の新しい変化を感じとり、専門員へ報告し、次の支援につなげています。

この事業を利用する方々の中には、判断能力に不十分さがあることで、うまく思いを受け止めてもらえないという経験をしている方もおられます。生活支援員は、これまでの生活の中で、周りから疎外されたり孤立しがちな人が、周囲の人や社会とつながっていくことをお手伝いしています。

「利用者と関わることによって、自分自身が多くのこと学ぶことができると」これは、ある生活支援員の言葉です。人と向き合い、学び認め合う関係は、これまで疎外されたり、孤立していった利用者の尊厳のある暮らしを支える大きな力となります。生活支援員の関わりは、住み慣れた地域での暮らしを支える本事業にとって大切な役割となっています。これからも一人ひとりに寄り添いながら利用者にとっての自らの暮らしをともに考えていきます。



福祉サービス利用援助事業は、認知症や知的障害、精神障害のある人たちが、判断能力に不安があっても安心して自分らしく生活していくことを支援する事業です。

事業では、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理と通帳等の預かり、紛失防止のための書類の預かり等を行い、地域での暮らしを支援します。今回はこの事業で利用者を訪問し、直接支援にかかる生活支援員の活動を紹介します。

自分らしい暮らし・しあわせをともに考える

—地域福祉権利擁護事業・生活支援員の活動を通じて—

外国人介護人材のいま

～京都府外国人介護人材支援センターで大切にしていること～

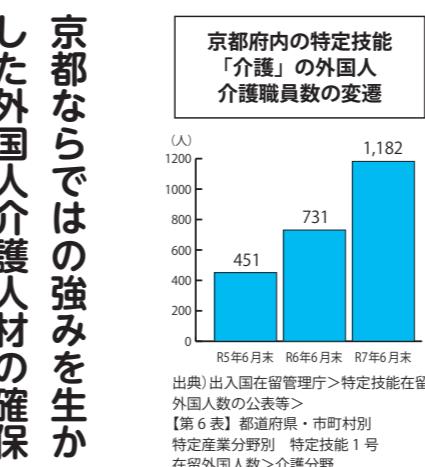


わけ特定技能「介護」の在留資格で働く外国人介護職員が増加しています。

本会では京都府外国人介護人材支援センター（以下センター）を設置しています。第6次中期計画では「外国人介護人材の確保対策の推進」を掲げ、センターによる外国人介護職員の介護技術、日本語等の専門性向上支援や窓口相談業務などにより中長期的な視点で外国人介護人材の確保・育成・定着支援に取り組んでいます。センターの事業内容、事業に取り組むにあたり大切にしていることを紹介します。

データで見る外国人介護人材に係る京都府の状況

介護職員不足を背景に、外国人介護職員の受け入れが進んでいます。とりで外国人介護人材の確保・育成・定着支援に取り組んでいます。センターの事業内容、事業に取り組むにあたり大切にしていることを紹介します。



ある中で介護を希望するのは、職員や利用者とのやりとりを通じて自身の日本語能力を向上させたいというのが主な理由です。

実際に日本語学校の教員の方に話を聞くと、介護のアルバイトをしている学生は上達スピードが速いそうです。

また、最初は外国人介護職員の受け入れに関して不安を感じていた施設の方から、「学校でも日本語を勉強されてるので、思ったよりもコミュニケーションがきいています。」という話をよく聞きます。

一緒に働くことで、さらに活気あふれる職場になった。」という話をよく聞きます。アルバイトで介護の仕事の魅力を知り、介護の仕事を続ける方もいます。センターではアルバイトを入口に介護・福祉の世界を知つてもらい、長く活躍してもらえる人材を育成することを大切にしています。

テーマは「基礎力をつけること」です。特定技能「介護」で実務経験を積み、介護福祉士の資格を取得し、日本で働き続けたいという外国人介護職員の方が増えています。

センターでは今後も施設や関係機関の方々と連携しながら、外国人介護人材の確保・育成・定着支援に取り組んでまいります。センターの事業はホームページ、Xで紹介しています。ぜひご覧ください。

京都ならではの強みを生かした外国人介護人材の確保

京都府は日本語学校や大学の数が多く、海外から留学生が多く来日されます。センターの窓口相談のほとんどが留学生からのアルバイトに関する相談です。アルバイトの選択肢がたくさんなっています。※図1

京都で長く活躍してもらえる外国人介護人材を育成するために、センターでは介護技術向上研修や日本語能力向上研修等の研修を実施しています。これららの研修で共通して大切にしている

京都府外国人介護人材支援センターの実施年度と市町村一覧表です。センターでは今後も施設や関係機関の方々と連携しながら、外国人介護人材の確保・育成・定着支援に取り組んでまいります。センターの事業はホームページ、Xで紹介しています。ぜひご覧ください。

実施年度	市町村
令和5年度	長岡京市
令和6年度	亀岡市、精華町、京都市
令和7年度	福知山市、舞鶴市、京丹後市
令和8年度(予定)	綾部市、木津川市
令和9年度(予定)	京田辺市

「我が事」と考える地域づくり

～地域共生社会の実現にむけた包括的な支援体制の整備～

「包括的な支援体制の整備」とは

近年、高齢化や人口減少が進み、地域・家庭・職場といった、人々の生活領域における支え合いの基盤も弱体化しています。多くの地域では、社会経済の担い手も減少し、地域社会そのものの存続が危ぶまれています。こうした社会構造の変化をうけ、暮らしの困りごとは複雑化・複合化し、

従来型の社会保障での対応は難しくなってきています。※図1

そこで、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創つていく「地域共生社会」の実現を目指し、市町村において、既存の相談支援等の重層的支援体制の整備（市町村の任意で実施）（R7. 全国 473 力所）

取り組みを活かしつつ、地域住民の抱える課題の解決のための「包括的な支援体制の整備」を行うための「重層的支援体制整備事業」が創設されました。（令和2年社会福祉法改正、令和3年4月1日施行）※図2

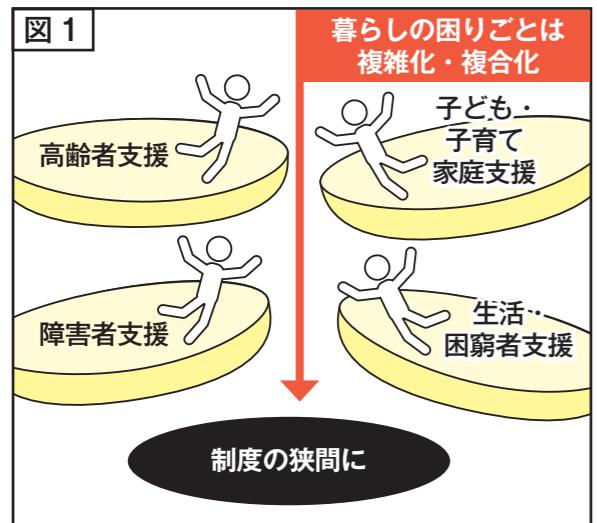
「包括的な支援体制の整備」は、地域住民等と支援関係機関が協力し地域生活課題を抱える地域住民を包括的に支える体制整備を行うものであり、①地域で支え合う機能、②支援関係機関が連携して支援を行う機能、③地域と支援機関をつなぐ機能の整備が重要とされています。

「重層的支援体制整備事業」は、この体制を整備するための事業であり、

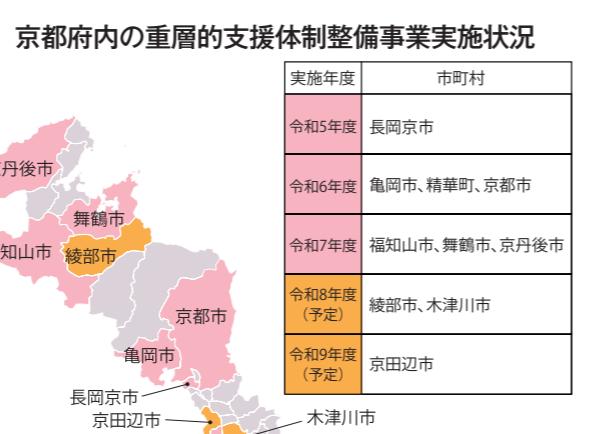
①包括的相談支援、②参加支援、③地域づくり支援、④アウトリーチ、⑤多機関協働を一体的に実施し、「包括的な支援体制の整備」を行う1つの手段として規定されています。

どこの地域であっても、誰も取り残されることのない包括的な支援体制の構築にむけ、「我が家」の強みや、社会資源を整理し、既存制度の強化や地域資源の繋ぎ直しなど、地域の実情に応じた整備が求められます。

京都府社協は、京都府や市町村、市町村協等の関係機関とともに地域共生社会の実現に取り組んでいます。3月号では、京都府内市町村の取り組みについて紹介します。



重層的支援体制整備事業の詳細については京都の福祉2023年3月号をご覧ください



利用者の想いを
丁寧にくみ取れる
支援者になりたい



特別養護老人ホーム
サンビレッジ宇治田原

・角川 加奈子さん

◆この職場を選んだ決め手は?

自宅から近いこともあります、いろいろなご縁があり、こちらでお世話になることになりました。

◆職場のいいところ

職員みんなが明るくて、笑顔が絶えません。ちょっとした気づきも声に出しやすく、チーム全体で支え合える雰囲気があります。

◆休日の過ごし方

家族とキャンプに行ったり、友人と食事をしたりして気分転換しています。

【施設名】(福)長楽会 サンビレッジ宇治田原
【場所】京都府綾瀬郡宇治田原町禪定寺砂川115-1
【URL】<http://sunvillage-ujitawara.jp/>
【TEL】0774-88-5311

高校時代、児童養護施設でのボランティア活動に参加したことが、福祉に興味をもつ最初のきっかけだつたと話す角川加奈子さん。「ご高齢の方と関わる中で、『もっと知りたい』という気持ちが芽生えました」。しかし卒業後は福祉とは別の業界に就職し、一度は違う道へ進んだ。

そんな中、20代半ばに訪れたオーストラリアでの体験が転機となる。現地の介護施設でボランティアを経験し、文化も言葉も違うにも関わらず、触れ合いや表情で通じ合えることに喜びを感じた。高校時代の原点が再び心の中で強く息を吹き返し、福祉の道を志す

決意を固めた。そしてグループホームでの勤務を経て、2025年3月にサンビレッジ宇治田原へ入職。現在は入所者の身体介護を担当し、日々の細やかなケアに力を注いでいる。「あなたがいてよかったです」と言つていただける瞬間が何よりも嬉しいです。それでも、利用者さんとどれだけ親しくなつても、家族でも友だちでもありません。大切な命を預かっているというこ

とを常に肝に銘じています」。今後の目標を聞くと「ご本人やご家族と信頼関係を築き、想いを丁寧にくみ取れる支援者になりたい」と快活な笑顔で語ってくれた。

第74回

京都府社会福祉大会を開催しました

令和7年9月4日、京都テルサにおいて、第74回京都府社会福祉大会（京都府・京都府社会福祉協議会・京都府共同募金会・京都ボランティア協会共催）を開催し、京都府内全域から約500人の方に参加いただきました。

オープニングセレモニーでは、京都府人権啓発イメージソング「世界がひとつ家族のよう」の作詞家である鮎川めぐみ氏より、イメージソング作成の経緯が紹介され、会場



京都府西脇隆俊知事の挨拶



京都府社協小畠英明会長の挨拶

の皆さんと手話を交えて歌い、改めて人の尊厳について考える機会となりました。

表彰式典では、長年にわたり社会福祉事業に貢献された民生委員・児童委員、社会福祉施設・団体、社会福祉協議会の役職員の方々やボランティアとして活躍された方、多額の御寄附や御協力をいたいた方々が表彰状・感謝状を受けられました。

府知事表彰は、359の個人・団体、府社協会長表彰・感謝は454の個

人・団体、府共募金会長表彰・感謝は195の個人・団体、京都ボランティア協会理事長表彰は6の個人へ表彰されました。式典の最後には、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう地域の多様なニーズにこたえる包括的な支援体制の構築を進めていくとともに地域住民一人ひとりが主体となり、支え合い、助け合う共生社会の実現に向けた取り組みを進めていく旨の大会決議文が採択されました。

本会としても、基本理念「つながりをいかして、だれもが尊厳をもつていけることができる社会をつくる」の実現に向け皆様方と連携を密にしながら共に歩んでまいりたいと存じます。引き続き地域福祉のさらなる発展のためにご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

受賞者からのコメント

京都府災害ボランティアセンター 運営委員 宮城 光夫 様

「福祉」で長年にわたり大活躍されている方々の表彰に混じり、私どもの活動「災害ボランティア」が評価されたことは、「弾みになる！」の一言につきます。これを契機に、「被災された方々への想いを形に変えて届ける活動」を、更に邁進して行きたい所存です。「You are in Trouble, we will help you!」「微力ではあるが、無力では無い！」



